

第5回 「国土交通広域連携中部会議」 議事要旨

日 時 平成21年6月11日(木) 14:30~15:30

場 所 名古屋国際会議場 3号館 3階 国際会議場

◇議事

議題1

- ・ 中部ブロックの社会資本の重点整備方針（素案）について
- ・ 中部ブロックの社会資本の重点整備方針（素案）に係る市町村意見対応（案）

議題2

- ・ 新まんなかビジョン（素案）について
- ・ 新まんなかビジョン（素案）の策定について

◇ 第19回 国土交通中部地方有識者懇談会(まんなか懇談会)の結果について

○須田 東海旅客鉄道(株)相談役

- ・ 新まんなかビジョン（素案）について、概ね賛同を得た。懇談会の中で挙げられた意見は以下の3点である。

① 9つの地域割りにについて

- ・ この地域割りにについては賛同をいただいた。特に、水系や街道を中心に圏域を超えた地域割りは新しい試みであり、これを活かしたビジョンとしていくべきである。
- ・ また、地域同士が「連携・協働・補完」した地域づくりが重要で、その必要性・重要性を示すために、何らかのキーワードを考えていく必要がある。

② 社会資本整備について

- ・ これまでの社会資本整備とともに、「人を中心に据えた社会資本の整備」や「モノ作りをサポートする社会資本の整備」について考えていくこと。
- ・ 例えば、「陸・海・空の社会資本の連携強化」、「東西軸と南北軸の強化」などバランスある整備を進めていくこと。
- ・ 「資源再生」も考えていかなければならない。維持・管理による機能保全と共に現状に価値を付加していくことを考えること。
- ・ 同時に、社会資本を整備していく上では、「選択と集中」を徹底していくこと。
中部は、全国の中核的な地域だから今後も重点的に整備されるべき地域であると同時に、地元にも全国的な視点に立ってこれを有効に活用すべき責務がある。

③ 中部地域と北陸地域との連携について

- ・ 中部地域と北陸地域は一体であり、日本海側と太平洋側の役割分担を考え、特徴を活かし合いながら、連携・協働した地域づくりが望まれる。
- ・ 中部地域は、地域住民にとっては誇りの持てる地域、他の地域の方々にとっては憧れが持てる地域になるような地域づくりが必要である。そのためには、文化・芸術面への配慮も必要で、その下支えをするものが社会資本整備になるだろう。
- ・ 地域づくりを進めていく上では、「連携・協働・補完」がキーワードとなる。全国的な視野に立って考えることは中部地域の責務である。

◇意見交換

○神田 愛知県知事

- ・ 中部地方は日本のまんなかに位置し、リーディング産業の集積地域として日本経済の先進的役割を担ってきた。中部地方が文字通り「日本のまんなか」の存在としての役割はますます重要となっている。そのためには、「陸・海・空」の社会資本整備の充実を図り、地域の期待に応えていく必要がある。
- ・ 道路網の整備は、地域間の交流を高め、中部地域が連携を進めていく上では必要不可欠である。わが県にとっては、社会資本整備重点方針に記載されている「名豊道路をはじめ名古屋環状2号線名古屋～飛島間の整備」だけでなく、西知多道路、名浜道路、一宮西港道路などの整備もこのアクセスを保障するものとして、引き続き整備する必要がある。空港や港湾へのアクセス道路の整備は海外との物流を支え、まさに、中部地方が近隣圏域も取り入れた形で、世界経済と結びつくことができる。
- ・ 海の国際ゲートウェイである名古屋港などをスーパー中枢港湾として整備することは、国際競争力を高める上では不可欠である。急進するアジアの諸港湾と比肩する港になり、日本の海域輸送を支える玄関としての役割を期待している。
- ・ 空の社会資本としては、やはり中部国際空港24時間化、2本目の滑走路の整備による機能拡充が求められる。地域をあげて取り組んでいきたい。
- ・ また、2010年にはCOP10が開催される。中部地方を世界に発信する貴重な機会であるだけでなく、まんなかビジョンを推し進める最初のグローバルイベントである。必ず成功させて、当地域が国際的にもまんなかであることをアピールしたい。

○鈴木 浜松市長

- ・ 国際的に強い産業競争力のある地域づくりを目指すため、この6月に開港した富士山静岡空港、港湾では三河港、御前崎港等を利用した国際物流ネットワークの機能向上と、道路交通網として要となる三遠南信自動車道、東西軸の新東名（第二東名）高速道路や現東名高速道路の連結をはじめ、市街地と各拠点とを結ぶ主要な国県道整備や街路整備事業を進めたい。
- ・ 特に、三遠南信自動車道は、本市にとっても、地域全体の利益にとっても最重要事項であるため、国が主体となって早期開通されることを期待する。
- ・ 市内の整備においては、遠州鉄道の連続立体交差事業を実施しているところである。当市も分散型の構造であるため、鉄道網を充実させることは困難である。従って、地域に欠かせないバス交通のあり方について、より具体的な検討をしていきたい。
- ・ 中心市街地の活性化は、当地域においても数年来の課題となっている。浜松市街地ではコンパクトシティへの取り組みを進めているが、抜本的な解決につながっていないのが実情である。課題を克服すべく、創意工夫で乗り越えていきたい。
- ・ 自然資源の維持・保全を目的として、遠州灘海岸の侵食防止や佐久間ダム再編事業が進められている。中田島砂丘の後退も見られ、ダムの土砂の堆積とも関係があるものと考えている。中部地方が誇る貴重な自然財産として、鋭意取り組んでいきたい。
- ・ 最後に、本年9月に開催する花と緑の国際イベント「浜名湖立体花博」については、順調に準備を進めているところであり、今後さらなるご支援を頂きたい。

○河村 名古屋市長

- ・ 地域の役割と展開の方向性という点で、当地域は信長、秀吉、家康の時代から貴族社

会をうち破ってきたという歴史的背景がある。彼らは、市民の自立性を活かした社会を作ってきた。そのパワーを取り戻すことが必要だと思う。

- ・ そのためには、公約にも掲げた減税を行っていく。日本初の市民税 1 割減税を断行していきたい。名古屋市職員の力添えも借りて頑張っていきたい。そして、この取り組みを名古屋からのメッセージとして全国に投げかけたい。納税者が喜ぶまちに変えていきたいと考えている。
- ・ また、これからは地域のことは地域で決めて行っていくことが重要である。地域のことは地域住民が一番よく知っている。住民主導のまちづくりを進めていくことを名古屋から力強く発信していきたい。

○川口 中部経済連合会会長

- ・ 今回のビジョンの特徴である古くからの交通体系等を踏まえ、県境を越えた 9 つの地域分けはユニークな試みである。また、中部国際空港の完全 24 時間化について、より具体性のある記述も含まれており、全体的に意義のある内容であると思います。
- ・ 当地域はものづくりを中心に発展してきた地域であり、国際競争力強化の点からも着実にビジョンを具体化していく必要がある。
- ・ 災害対応については、災害は県境越えて影響を及ぼし、復旧作業は行政を越えて行われる。その様な意味で、大規模災害への対応も考慮されている点も評価できる。
- ・ また、大規模災害へ対応していくためには、社会基盤の整備が重要である。東西軸、南北軸、環状軸を形成する高速道路網の整備は重要で、例えば三遠南信地域では、すでに地域連携の取り組みが行われており、これが一つのモデルになると思う。
- ・ 今後は、「広域地方計画」と「まんなかビジョン」が整合性あるものとし、それぞれの役割の下、中部地域の将来の発展戦略を着実に実現させるために、より統一感のあるビジョンとしていく必要があると思う。そして、これらを定期的にフォローアップしていくことで、中部の持続的発展の実現につながるものと考えている。

○松尾 理事長（名古屋市都市センター）

- ・ 社会資本の早急な「補修と強化」を進めてほしい。例えば耐震補強について、公立学校や拠点病院などは、未だに 50%以上が耐震不足という状況である。これらの施設は、災害時の避難場所となるため、早急な対応が必要である。また、災害時に特定の地域が孤立することのないように橋などの耐震強化も急務である。
- ・ 日本の主要な公共構造物は、これから一気に老朽化を迎えることになる。戦後急速に整備されたためであり、今から着実に老朽化対策事業を進めていく必要がある。
- ・ また、公共構造物に関しては長寿命化とともに「資源再生」という新しい視点を付加していかなければならない。「資源再生」とは、維持・管理とは異なり、新たな付加価値を加えることである。

◆以上